【小学校･中学校･義務教育学校用】

令和４年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

様式1（小･中）

学校名	白石町立有明東小学校

1 前年度 評価結果の概要	・学力向上に向けた取組では、学力向上コーディネーターが中心となって、県学習状況調査結果の分析から課題の把握、対応策の検討等、全職員で分担をして研修を行った。 教職員アンケートの項目『学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教職員が９０%以上』達成しており、日々の指導により、学習状況調査の結果も良好。 ・業務改善及び教職員の働き方改革の推進では、働き方改革の研修を行い、個人の振り返りと今後の取り組みを考えさせ、教職員の意識の改革を行った。 時間外在校等時間の平均は減ったが、まだ上限(月45時間）を遵守できていない教職員がおり、引き続き取り組んでいかなければならない。
2 学校教育目標	**進んで学び　さわやかに　たくましく生きる子どもの育成**
3 本年度の重点目標	**①　全ての子どもが「学ぶ喜び」「分かる・できる喜び」を感じられる教育活動を推進し、学力の向上を図る。** **②　全ての子どもに「自分や友だちのよさを認め、仲よく活動する」機会を作り、「学校に来てよかった」と思える成就感の向上を図る。**

4　重点取組内容・成果指標　／　中間評価　／　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプラン（めあて･まとめ、表現）の成果指標を達成した教師85％以上	・校内研修を行い、共通理解を図るとともに、全職員で継続的に徹底して指導を行う。	B	・「共通実践のためのマイプランを実践している」と答えた職員の割合は100%である。しかし、よくあてはまると答えた職員は15．4%であることから、自信をもって答えることができるようにしていきたい。授業づくりチェックを学期末等に行い、意識させていく。	A	・「共通実践のためのマイプランを実施している」と答えた職員の割合は100%である。また、中間評価で15.4%であった「よくあてはまる」と答えた職員の割合は23%と上昇した。佐賀県教育委員会の教育課程の動画視聴や、各種資料等、日々研鑽を重ね、自信をもって授業に臨むことができた。	A	・教師として自信をもって授業に臨んでいることはすばらしい。 ・子ども達の学力向上のため、日々頑張ってもらい感謝する。 ・子ども達の学力向上につなげてほしい	学力向上コーディネーター
	◎主体的･対話的な学びの充実	〇「学習のめあてをもたせ，まとめにつなげている。」の質問に対して肯定的な回答をする職員の割合90%以上にする。	・めあてを子ども目線で立てることができるような授業実践を行うために，教材研究･児童理解を深める。	A	・学習のめあてを持ち、学習に取り組んでいる」という児童の割合は95．7%であった。今後は「よくあてはまる」と答えている児童の割合が増えるよう、教材研究をさらに深めていきたい。	A	・「学習のめあてをもち、学習に取り組んでいる」という児童の割合は、中間評価より下がって93%であるものの、成果指標は上回ることができた。「自分の考えを文や言葉で話したり書いたりできますか」の問いに対し、中間評価の87.1%から90%と上昇していることから、主体的に学ぶことができたと考える。	A	・児童にめあてをもたせ、達成感を味わわせることで、学習意欲がより増すと思う。 ・自分の考えを言い、書くことができるのは素晴らしい。 ・令和4年度学習状況調査で、6年生はどの教科も県平均を上回っていました。これも先生方が日頃努力されている結果だと思う。	学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇「自分のよさに気づくことができる」という児童を85%にする。 〇「友だちのよさが分かる」という児童を95%にする。	・道徳の学習や日頃の活動を通して、自分のよさに気づくと共に、他者への思いやりの心を育てるための取り組みや指導の在り方などを工夫する。	B	・自分のよさに気づいている児童は78．5%、友達のよさに気づいている児童は95．7%であった。2学期からも道徳等の学習や日常の活動を通して、児童のよさを称賛したり、褒め褒めタイムなどの活動を設けたりすることで、自他のよさに気づくことができる児童が増えるように取り組みを継続していく。	B	・自分のよさに気づいている児童は79%とわずかではあるが上がっている。また、友達のよさに気づいている児童も97%と上がっている。教師からの称賛の言葉かけや友だち同士での褒め褒めタイム、また、道徳の学習や人権集会、ふわふわ言葉への取り組み等により、児童自身が自他のよさに気づき、思いやりの心が育ってきたと考える。	A	・地域性もあると思うが、自己評価は長年低い傾向である。それを伸ばしてもらっている教育環境、姿勢はすばらしい。 ・自分自身のよさに気付くことも重要であるが、友だちのよさに気付いているとことが97%と非常によく、このことは大変すばらしいことだと考える。 ・自分のよさを児童も含めて我々も見直す機会がないので、ぜひ、自他のよさに気付くような取り組みを今後も行ってほしい。 ・今後も学校全体で取り組みを続けてほしいです。お手本となる保護者や先生が言葉や行動に注意しなければいけないと思いました。 ・授業を通して自分のよさや友達のよさに気付いたことは良いことで、続けてほしい。 ・低学年は質問の意味が分かっているか疑問である。	特別活動部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	〇小さないじめ事案を見逃さないように、報告･連絡･相談をしようと務めた職員の割合を100%にする。 〇「友だちと仲良く協力し、学校で楽しく過ごすことができている」という児童を95%にする。	・子どもの観察や定期的なアンケートで実態を把握し、問題行動やいじめに迅速に対応する。 ・小さな事案でも関係者での話し合いやケース会議を行う。 ・児童理解連絡会を定期的に設け、職員全体で把握する。	A	・いじめに関する研修を受けたことで、些細ないじめ事案も見逃さない、適切に対応するなど、職員の意識を高めることができた。 ・94．6%の児童が友達のことを思いやり、楽しい学校生活を送ることができている。 ・細やかな児童観察やアンケートでの実態把握等をするとともに、気になる児童はケース会議やSCとの相談を行う。また、児童連絡会で報告することで全職員が把握し、何らかの支援ができるようにしていく。	A	・アンケート等で実態を把握するとともに、ケース会議や児童連絡会、SCとの情報交換等を定期的に行った。些細な事案でも児童自身に話を聞いたり、声かけなどを行ったりしたことで、98%の児童が友達のことを思いやり、学校で楽しく過ごすことができたと回答することができた。	A	・日頃児童の様子をよく見て、話を聞いてもらっているので、いじめを早期発見できている。 ・学校が大好き、学校が楽しいと子どもたちが言ってくれることが最高だと思う。 ・友達や周りの人のことを思いやる気持ちがもてることは自分のことを知ることにつながり、コミュニケーションがとれることにつながりとてもよいことだと思う。 ・学校へ行くことが楽しく、先生や友達に会うことが楽しく、勉強することを学んで様々なことを知り考えることが楽しくなることはすばらしい。 ・SNSなどの普及で学校内では分からないようないじめがないか心配。学校と家庭が連携をとり、未然に防ぐことが必要ではないかと思う。 ・不登校が気になる。ほとんどの児童が楽しい学校生活を送っているのでよいと思う。	特別活動部
●健康･体つくり	●「望ましい生活習慣の形成」	〇気持ちの良い挨拶ができる児童の割合を90％にする。	・月の生活目標との関連を図る。 ・学年に応じた挨拶の仕方を指導し、定期的に振り返る機会をつくり意識づけをさせる。 ・挨拶週間を設定して挨拶に対する意識を高め、よく頑張っている児童を褒める。	A	・96%の児童がほぼ気持ちの良い挨拶をしている。 ・引き続き、定期的な振り返りや挨拶運動、学年での指導、賞賛をして、さらなる徹底を図る。	A	・94%の児童がほぼ気持ちの良い挨拶をしている。 ・定期的な振り返りや挨拶運動、登校時の様子を賞賛、月目標との関連づけ、学年による指導等により、気持ちの良い挨拶を意識させることができた。	A	・保護者アンケートも97.5%が良いという評価、先生方も「よくあてはまる」が11名と最も力を入れられたのだと感じた。 ・あいさつは十分できている。 ・素直な心、気持ちであいさつができることは、自分自身もすがすがしく、嬉しい気持ちになることを様々な場面で感じられるといいと思う。 ・立ち当番や学校内で会ったときなど、きちんとあいさつができている。 ・「あいさつ」も強制されているうちは身に付かない。大人（地域、家庭）からも必要。 ・あいさつはよくしてくれる。但し、登下校以外はそうでもない。 ・立ち当番の時も、元気にあいさつをしてくれるので気持ちがよい。近所で会ったときも元気にあいさつをしてほしい。	生活指導部
	〇「安全に関する資質･能力の育成	〇廊下右側歩行率を90％以上にする。	・月の生活目標との関連を図る。 ・視覚的に右側歩行を意識できるよう、掲示を工夫する。 ・定期的に振り返る機会をつくり、よく頑張っている児童を褒める。	A	・93%の児童がほぼ右側歩行をしている。 ・引き続き、教師による声かけや児童自身による定期的な振り返り、学年等による取り組みよって、さらなる徹底を図る。	A	・94%の児童がほぼ右側歩行をしている。 ・教師による声かけや定期的な振り返り、学年等による取り組みよって、廊下右側歩行を意識させることができた。	A	・学校の中でも意識をもつように工夫されている。 ・94%ができているのであればよい。 ・道路の歩き方がルールを守って、安全な歩行をしている。 ・道路上で悪ふざけをしている児童を見かけたことがない。 ・授業参観などで子どもたちと廊下で会うことがありますが、みんな右側歩行ができていると思います。 ・引き続き声掛け等で意識させてほしい。 ・ルールを守る指導は大切。下校時は、たまにはめを外して、道一杯に広がって帰っている。それでも、とび出しなどはないように児童も注意している。	生活指導部
●業務改善･教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	〇教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限（月45時間　年間360時間）を遵守する。	・定時退勤推進日の退勤時間を守られた日数を90%以上とする。 ・共通理解を効率的に行い、会議の回数や会議時間の精選及び効率化を図る。	B	・定時退勤推進日の「18時までに退勤」を守られたに日数は87.5%だった。夏季休業の7月と8月を除いては、毎月5～6名、時間外勤務時間が月45時間以上だった。 ・パソコン内の「掲示板シート」で共通理解を図るようにしたため、連絡会の時間削減ができた。	B	・定時退勤推進日の「18時までに退勤」を守られたに日数が88.9%と目標には達しなかった。 ・時間外勤務時間が月45時間以上の職員が月平均3.3人だった。 ・校時表を変更したことにより、水･木曜日の放課後に時間を確保できた。また、会議や研修を計画的･効率的に行うことで、業務の効率化を図ることができた。	B	・18時までに退勤について、88.9%とほぼ90%に近く、会議、研修についても時短や効率化に取り組まれ実績を上げられ、A達成でもよいのでは。 ・時間外勤務を減らす方向に進めたいのに、授業に関する業務以外が増えていると聞く。その中でも職員はよく努めてもらっている。 ・固定時間割への変更は良かったと思う。先生方の時間や心の余裕が子どもたちのよりよい教育に繋がると思う。 ・先生方の頑張りはすばらしい。体調に留意してほしい。 ・教育委員会と共同で取り組むべき内容である。いろいろな面で、教職員の方々の負担軽減となるよう努力していきたい。 ・時間外勤務については、どこの部署においても難しい問題。ノー残業デーや会議時間を1時間という目標を立てて頑張ってほしい。 ・働き方改革を進めてほしい。	教頭

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
〇特別支援教育	〇職員の専門性と意識の向上	〇特別支援に関する専門性が向上した教員100%	・特別支援に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催と情報共有	B	・「児童の実態を把握し特性に応じた支援に努めた」という職員は、「よくあてはまる」46.2%、「あてはまる」53.8%であった。 ・「応用行動分析の考えを基にした行動」研修を行った。 ・必要に応じてケース会議を開き対応策を講じ支援に当たった。	B	・「児童の実態を把握し特性に応じた支援に努めた」という職員は、「よくあてはまる」50%「あてはまる」50%合わせて100%であったが、6%の保護者が、学校は子どもの特性に応じた教育を行っているかに「あまりあてはまらない」と回答されていて、さらなる専門性と意識の向上が必要である。	A	・専門性が必要であり、児童に寄り添うことに十分留意されていることは評価できる。 ・多様化する特別支援教育に教職員の方々は、大変な苦労をしながら頑張っている。 ・「あまりあてはまらない」との回答5名の保護者のどういうところ（どの部分）だったのか、再アンケートなどもよいのでは。	特別支援教育担当

●･･･県共通　〇･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・どの項目においても、計画に沿って一年間しっかり取り組むことができ、どの項目も「おおむね達成できている」以上の評価となった。 ・学力向上や特別支援教育など専門性と意識を向上させながら取り組め、学力学習状況調査においては県平均を上回ることができた。 ・主体的･対話的な学びの充実については、新しく算数で研究を進めながら共通理解を図り、全ての教科等で推進していく。 ・不登校傾向やいじめ問題に対しては、次年度においても早期発見、早期対応を意識しながら組織的に対応していく。